

第 26 回 稲門建築会特別功労賞 (奨励)

関上復興支援研究者チーム

ながの さとし

永野聡

(芽 2007)

ひづめ ひろふみ

日詰博文

(苗 2006)

やまだ しゅんすけ

山田俊亮

(苗 2007)

立命館大学産業社会学部

准教授

株式会社 針生承一建築研究所

安田女子大学 家政学部

助教

業績：ゆりあげ港朝市を中心とする東日本大震災からの地域復興



左：永野、中：日詰、右：山田



競争の風景



朝市全景



復興に関する住民ワークショップの様子（2011 年 6 月）



朝市の建物の鳥瞰

【近況】東日本大震災の震災復興エリアマネジメント研究

立命館大学産業社会学部永野ゼミ 主催
https://www.naganoseminar.com/
名取市関上とカナダの国際交流プロジェクト
名取市関上では、カナダより約 1.2 億円の震災復興支援金により、復興のきっかけを得た。そこで、多大なる支援を頂いたカナダの皆様にお礼とこれからの国際交流を実施するプロジェクトを始動。
関上福興世かまぼこの商品開発
震災 10 年目の 2021 年、宮城県名取市関上の復興支援を頂いた皆様への感謝に加え、名取市関上とカナダとの交流の掛け橋を作るプロジェクトを実施。名物世かまぼこのオリジナル商品開発、復興感謝にとどまらずカナダと日本の友好の掛け橋づくりに繋がるプロジェクトを実施。



商品開発を行った 関上福興世かまぼこ
名取市・カナダ大使館の方々とお披露目

推薦文

2011 年 3 月の東日本大震災時、早稲田大学建築学科専任助手を務めていた折、関上復興支援研究者チームを発足し、ゆりあげ港朝市協同組合代表理事の櫻井広行氏らと共にゆりあげ港朝市（宮城県名取市）の復興に携わりました。都市計画、建築計画、構造・防災といった、それぞれの専門性に立脚し、チームとしてゆりあげ港朝市や地域の復興に貢献しました。施設再建後も現地での震災復興に関する学術調査ならびに周辺の地域復興に関する研究を現在まで継続し、多くの来場者で賑わうゆりあげ港朝市が、商業施設に留まらない地域の震災復興の拠点としての活動に貢献してきました。これらの震災後から現在までの復興過程の一連の成果は、学術論文（日本建築学計画系論文集 2017.11、2021.3）としてもまとめ、将来起こりうる震災復興においても参考となる復興手法としての意義も有しています。

これらの活動・成果により、文部科学大臣より令和四年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（理解増進部門）（2022 年）、（社）日本建築学会より日本建築学会賞（業績・復興復興特別賞）（2021 年）、（公財）日本デザイン振興会よりグッドデザイン特別賞（復興デザイン）（2017 年）、などの受賞も経て社会的にも高く評価されています。

以上のように、建築学の各専門性に立脚した協働により、社会的に貢献しており、稲門建築会特別功労賞に相応しいものとして推薦申し上げます。

個人略歴

永野聡は、2014 年 10 月に博士（建築学）を早稲田大学にて取得しました。豪州、アデレード大学建築・都市スクールの訪問研究員の後、福井大学、三重大学にて教育研究に従事しました。現職は、立命館大学産業社会学部・大学院社会学研究科の准教授として、「ソーシャルイノベーション・ソーシャルデザイン」をテーマとした各種授業とゼミナールを担当しております。主な研究業績は、ジェロントロジー研究の一環として、『ロングライフウェルネス～ジェロントロジーの理論と実践～』（2022 年）の出版をしております。また、現代アートを活用した地域活性化研究として、大地の芸術祭に 2012 年より作品を連続展しております。そして、東日本大震災の震災復興エリアマネジメント研究として、関上地区に新しい風景を作るプロジェクトを実施しております。

日詰博文は、早稲田大学大学院修士過程時に SD レビュー 2007 に入選、博士課程在籍時に早稲田芸術学校協賛の国際コンペティションで最優秀賞、小野梓記念芸術賞を受賞、2010 年より 3 年間は早稲田大学建築学科助手を務め、早稲田大学理工学部学術院総合研究所の招聘研究員として研究と学生の研究指導にあたりました。2014 年から現在まで宮城県内の針生承一建築研究所に従事し設計及び復興に携わっています。ゆりあげ港朝市に隣接する復興商店街、かわまちてらす関上（2019 年）では設計監理及び、関上地区まちづくり会社設立準備時期から参画し支援を行いました。実務の他、建築空間デザインの理解増進を旨に折紙及び、起絵図に着想を得た創作活動（https://fb.com/alterna.archi）に励んでいます。

山田俊亮は、2009 年に早稲田大学創造理工学研究科修士課程を修了後、2012 年に同研究科の博士後期課程を単位取得退学。2010-2013 年に早稲田大学建築学科助手、2015 年から現在まで安田女子大学家政学部助教として教育研究に従事しています。主な研究テーマは歴史的建造物の保存再生であり、早稲田大学新谷研究室在学時より、日本政府アンコール遺跡救済チームのユネスコ世界遺産バイヨン寺院修復事業に参画し、現在まで同事業に参画しています。その他に、国内では、国登録有形文化財旧本庄商業銀行煉瓦倉庫の再生（ユネスコアジア環太平洋文化遺産保全賞（2018 年）、日本建築学会作品選奨（2019 年））などの業績があり、現在も国内の歴史的建造物の保存再生プロジェクトなどにも携わっています。

業績概要

1. 民主導による早期の復興手法の実現：2013 年 5 月に沿岸部の商業施設としては、最も早期の復興を実現した。一般的な従来型の復興事業では、マスタープランを描き十分な資金により工期を確保し、長い時間をかけ一括で建設する（右下段図の上段白枠）。一方、ゆりあげ港朝市では、再建の過程で、段階的に得た資金を原資とし、朝市を開催しながら段階的な建設による民主導の復興を成した（右下段図の中段青枠）。この手法（柔軟な時間設計と問題解決への適切なアプローチ）は、施設および被災地域の復興過程を来場者へ「見える化」し、来場者が復興に関する行事等を通じて復興に貢献していることを感じることができる場（参加型復興の場）を生み出した。今後の参考となる復興モデルを提示している。

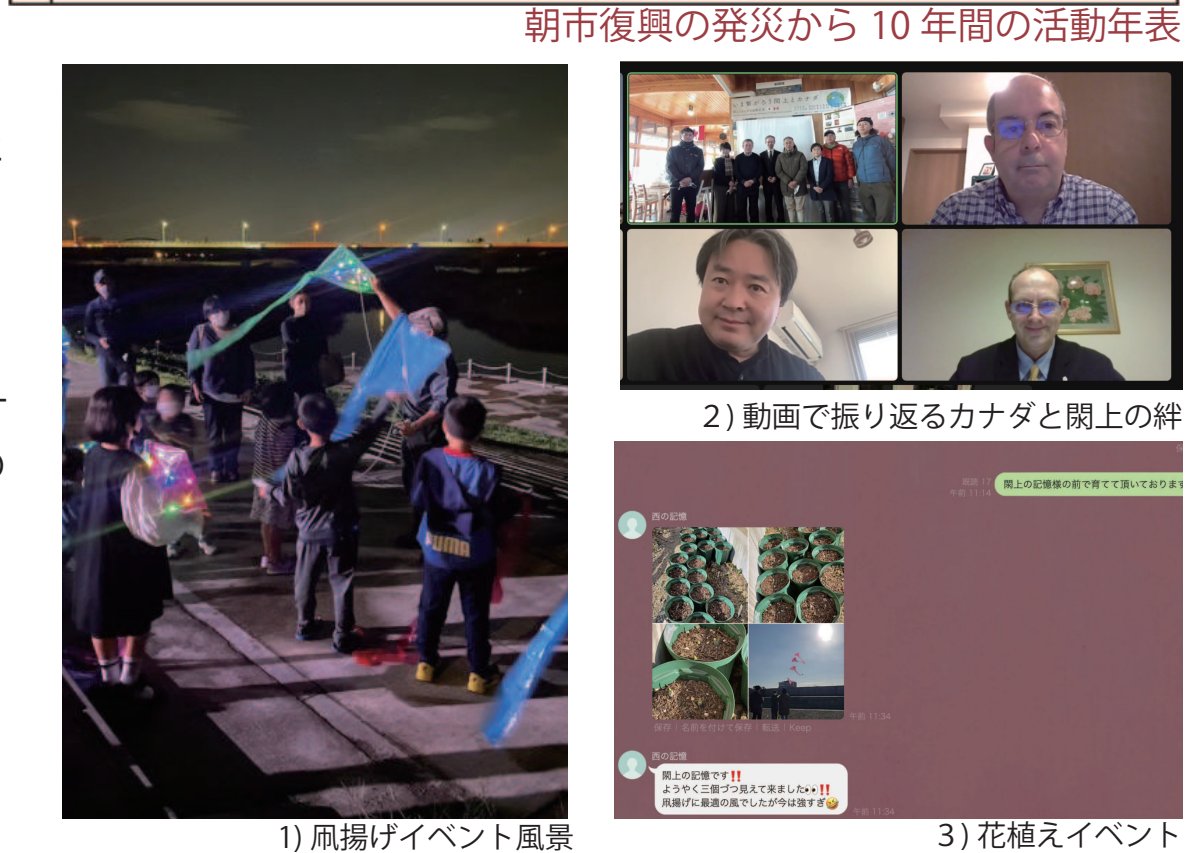
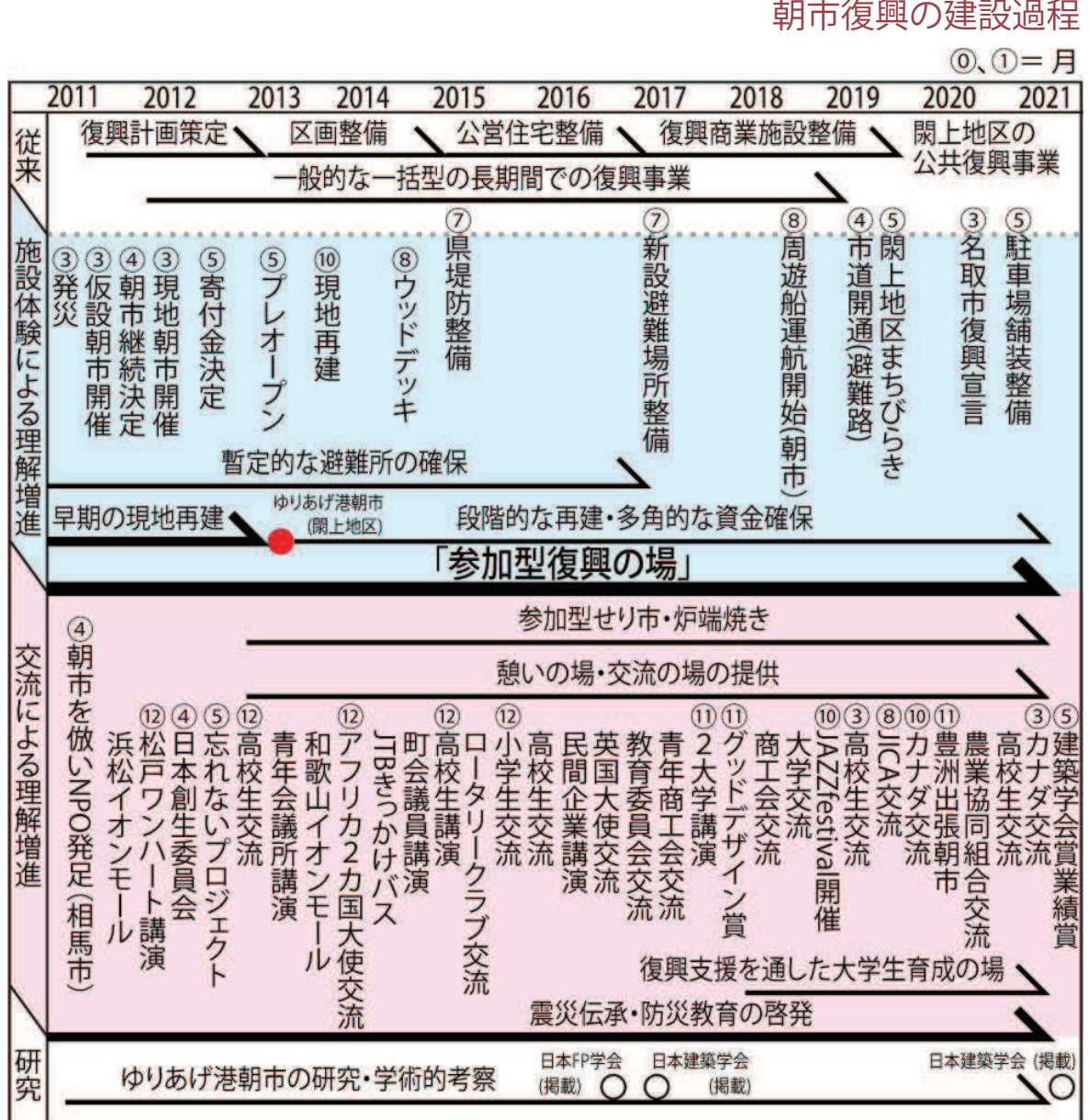
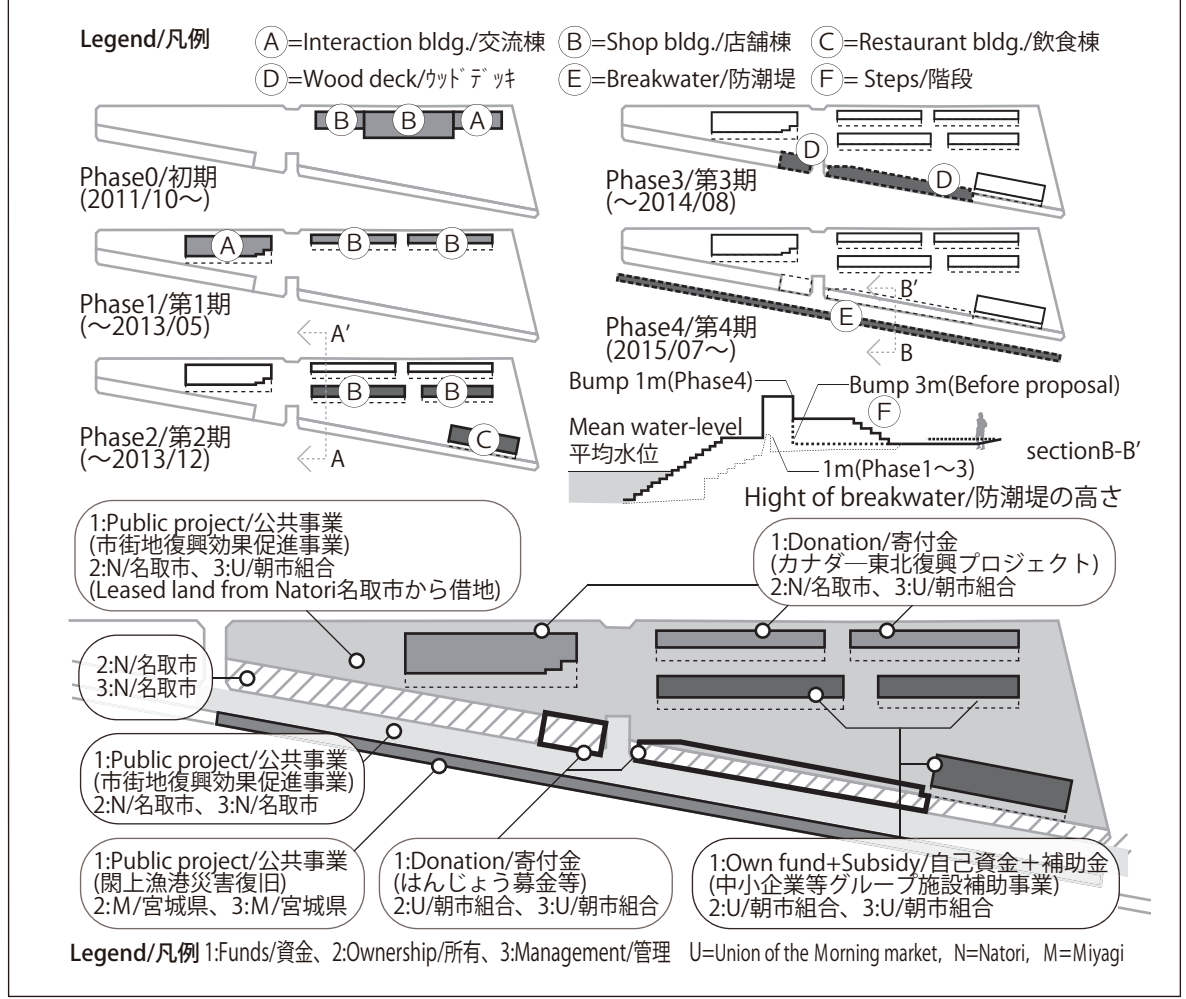
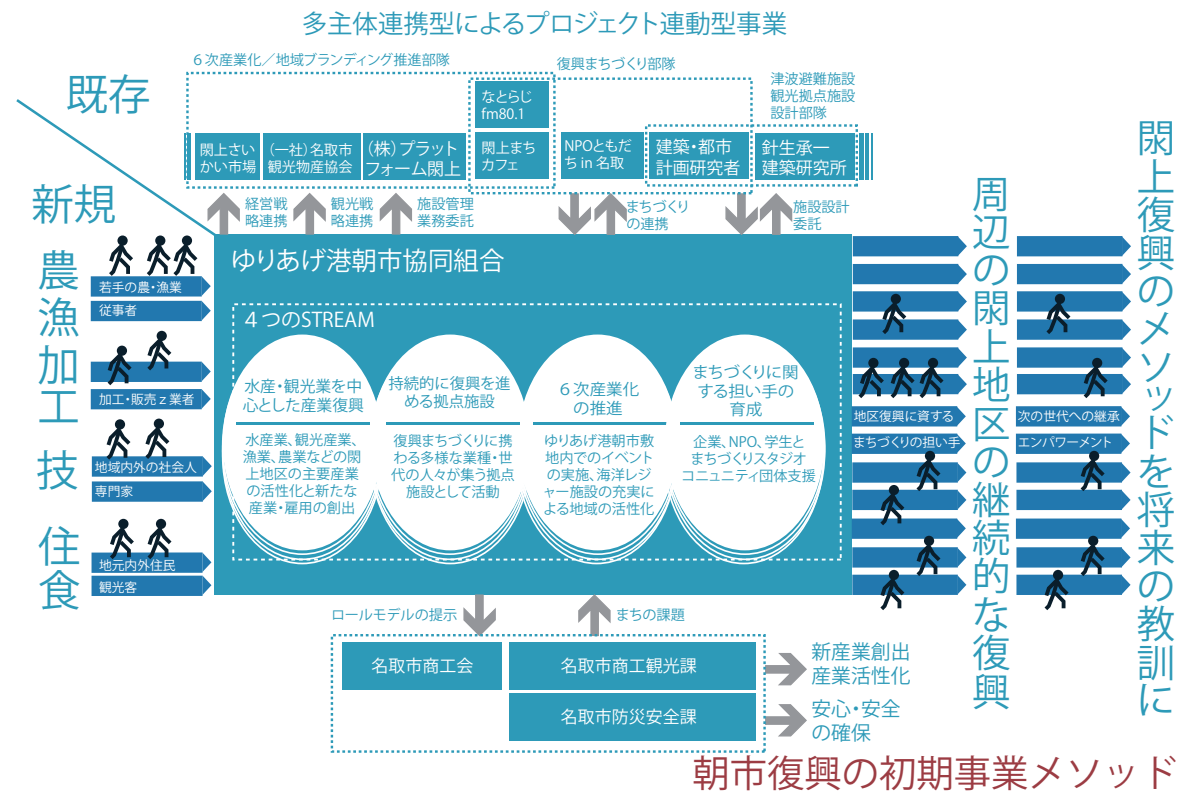
2. 地域の復興の拠点としての活動：ゆりあげ港朝市は組合内の小規模な集まりに留まることなく、国内外の多様な組織（NPO、任意団体、企業・団体、自治体、ボランティア、他）との連携を段階的に創出した。2013 年の早期の復興により、被災地域と様々な地域からのボランティアを結ぶ拠点として機能し、公共性をもつ場となり、様々な交流を生み出した（右下段図の下段赤枠）。それらの活動などにより、土地区画整備が進む関上地区の地区復興を導く礎となった。また、被災地域での企業立地希望者にとって、集客、売り場、就業環境の確保に寄与し、同地区での再建や新規立地の足掛かりを与え、被災地域への商業誘致及び地域の復興を後押しする場を創出した。また、最近の活動としては、2020 年に、復興支援を通じて交流を深めたカナダとの国際交流事業も行うなど地域の活性化に貢献している。

3. 東日本大震災の教訓の伝承：震災直後から、櫻井広行（ゆりあげ港朝市協同組合代表理事）は、朝市開催時には、来場者に対して施設内にて震災に関する講演・啓発活動等を実施し、様々な場での一般講演も多数開催した。海外からの公的の視察団（カナダ（2013 年等）、レソト王国（2013 年）、ラテンアメリカ・カリブ海大使会（2014 年）等）も多数受け入れ、海外にも広く震災に関する情報を発信した。また、震災復興を協働する建築分野の研究者（永野聡、日詰博文、山田俊亮）らは、ゆりあげ港朝市を対象とする震災後から現在までの学術調査の成果を学術論文としてもまとめ、将来起こりうる震災復興においても参考となる復興手法（事例）としてまとめた。

新しい風景づくり

関上地区に、10 年・20 年と残り続ける風景を作る取り組みを住民と実施。

- 1）風揚げイベント：閑散とする関上地区の夜間に、親子で楽しめる賑わい創出する取り組み（光る連凧）を実施。
- 2）動画で振り返るカナダと関上の絆：名取・関上とカナダ・バンクーバー（日系人）を同時（Zoom）に繋いで、動画を上映。震災復興の際の繋がりを思い出すきっかけを創出。
- 3）花植えイベント：チューリップの花を球根から育てて、2023 年 5 月 4 日にメイプル館で寄せ植えを実施。地域住民、市役所、カナダ大使館、大学でチューリップを育て、LINE のオープンチャットで過程をシェア。



1) 風揚げイベント風景

3) 花植えイベント